

令和6年度 第12回千葉県環境影響評価委員会 会議録

1 日 時

令和7年3月12日（水） 午後1時から午後3時30分まで

2 場 所

Web会議形式

3 出席者

委 員：菊地委員長、齋藤副委員長、
井上委員、近藤委員、高橋委員、八田委員、水田委員、
永村委員、本間委員
（9名）

事務局：環境生活部 庄山次長、市原環境対策監
環境政策課 二川課長、三田副課長、大島班長、丸山主査、
今川主査、小谷野副主査

傍聴人：6名

4 議 題

- （1）（仮称）千葉袖ヶ浦天然ガス発電所建設計画に係る環境影響評価準備書（再手続版）について（審議）
- （2）君津環境整備センター第Ⅳ期増設事業に係る環境影響評価方法書について（審議）
- （3）その他

5 結果概要

- （1）（仮称）千葉袖ヶ浦天然ガス発電所建設計画に係る環境影響評価準備書（再手続版）について（審議）
事務局及び事業者から資料に沿って説明があり、審議が行われた。
- （2）君津環境整備センター第Ⅳ期増設事業に係る環境影響評価方法書について（審議）
事務局及び事業者から資料に沿って説明があり、審議が行われた。
- （3）その他
特になし。

審議等の詳細については別紙のとおり。

[資料]

- 資料 1－1 (仮称)千葉袖ヶ浦天然ガス発電所建設計画に係る環境影響評価手続の状況等について
- 資料 1－2 (仮称)千葉袖ヶ浦天然ガス発電所建設計画に係る環境影響評価準備書 委員から寄せられた質疑・意見に対する事業者の見解
- 資料 1－3 (仮称)千葉袖ヶ浦天然ガス発電所建設計画に係る環境影響評価準備書 意見の概要と事業者の見解
- 資料 2－1 君津環境整備センター第Ⅳ期増設事業に係る環境影響評価手続の状況等について
- 資料 2－2 君津環境整備センター第Ⅳ期増設事業に係る環境影響評価方法書 事業者説明資料
- 資料 2－3 君津環境整備センター第Ⅳ期増設事業に係る環境影響評価方法書 委員から寄せられた質疑・意見に対する事業者の見解

別紙 審議等の詳細

議題（１）（仮称）千葉袖ヶ浦天然ガス発電所建設計画に係る環境影響評価準備書（再手続版）について（審議）

○事務局より資料１－１について説明。

質疑なし。

○事業者より資料１－２及び１－３について説明。

質疑なし。

議題（２）君津環境整備センター第Ⅳ期増設事業に係る環境影響評価方法書について
（審議）

○事務局より資料１－１について説明。

質疑なし。

○事業者より資料１－２及び１－３について説明。

（委員）

この処分場では、Ⅰ期から現在までの間で天然ガスの問題はないか。

（事業者）

これまで埋立、掘削等でそういった問題は生じていない。

（委員）

現地調査を行った際、遮水シートの耐用年数について質問した。今回の配付資料によると現状では最高レベルの施工がされるのだと思うが、何か事象が起きたときの地下水の保全を考えると、その時間スケールは百年、千年、場合によっては万年になる。このタイムスケールをどのように考えたらいいいのか、これは環境アセスの範疇にはないかもしれないが、地下水の専門家として気になるところである。

なぜ保全しなければいけないかを考えると、水循環基本法が１０年ぐらい前に制定され、それに基づいて水循環基本計画が策定されている。昨年度には新しい水循環基本計画が閣議決定されているが、その中で行政は、重要な地下水盆、帯水層に対して地下水協議会を作って管理していくことが推奨されている。

この地域では、自噴井が産業にも利用されている。加えて、令和元年房総半島台風の時も自噴井が利用され、行政から給水車が派遣された際、久留里はいいから他を回ってくれ、ということもあったので、災害用としても非常に価値がある。その辺りも考慮して、今後のあり方を考えていただきたい。

また、地下水流動系、グラウンドウォーターフローシステムという概念に基づいて現状把握すべきと意見を述べた。局所的流動がどこかで中間的流動に接続しており、一番可能性があるのが梅ヶ瀬層と思われる。地下水流動系の概念に基づいて調査を進めていただきたい。

日本原子力研究開発機構が20年ぐらい前に出した養老川流域における地下水の ^{14}C による年代測定に係る報告書がある。その中では、古いものは2年以上の年代が得られているが、梅ヶ瀬層や万田野層では ^{14}C では年代測定できない新しい地下水がかなり地下深くまで入っているということがグラフから読み取れる。梅ヶ瀬層の地下水流動系における位置付けは、今後、何らかの事象が起きたときに、それを予測する重要な観点になると思うので、地下水流動系の考え方で、上総層群、特に梅ヶ瀬層の地下水流動を把握していただきたい。

(事業者)

地下水流動系が重要と考えているので、調査でも局所的、中間的といった観点で調査を進めていく。遮水シートの耐用年数の件に関しては構造上の話になると思うが、十分に分解できるような構造を維持し、分解を促進することが周辺への環境影響も少なくすることが基本であり、一番重要と考えている。

(委員)

資料2-2の21ページ、環境影響評価項目の選定で確認したい。粉じんが工事の実施と施設の供用の両方に入っているのは、未舗装道路を走行する影響という理解でよいのか。

(事業者)

工事の実施については、工事車両の未舗装道路の走行と切土・盛土の2つで、供用時には、廃棄物運搬車両の未舗装道路の走行と廃棄物の埋立てである。

(委員)

未舗装道路は廃棄物運搬車両が必ず通るルートなのか。

(事業者)

廃棄物を事業場の南側から搬入するときは、ここのルートを使用する。

(委員)

Ⅲ期までの実績も踏まえて、供用時を予測するという理解でよろしいか。

(事業者)

そうである。

(委員)

もう1点、埋立て行為そのもので粉じんが発生するのでそれも対象に入っているとあったが、その予測方法についてもう一度説明していただきたい。

(事業者)

27ページのとおり、掘削工事と一緒にだが、道路環境影響評価の技術手法に基づいた計算式で予測していく。

(委員)

資料2-2の51ページで植物の移植地が●で示されており、既に移植されたものと理解しているが、移植した種が何であったか、それが活着して生育しているか教えていただきたい。

(事業者)

移植した個体は、エビネ、ナツエビネ、コクラン、クマガイソウ、シラコスゲ、ツクシ、ショウジョウバカマ、キンラン、ギンラン、ミヤマウズラ、バイカウツギ、エビガライチゴになる。活着の状況は、現在は概ね良好となっている。大雨の際に一部移植地で移植株が流されてしまった経緯があったが、新たな移植地を形成するなどして保全に励んでいる。

(委員)

今後も、できる限りのモニタリングを続けていただきたい。

(委員)

それに関連して、現地調査した時に敷地内で緑化されている場所がたくさんあったが、その植物の管理があまり適切にされていないような印象を受けた。先程、概ね良好と言われたが何%ぐらい活着したかが重要になってくると思う。どのように管理されているか具体的に教えていただきたい。

(事業者)

造成森林の緑化は、最近、実施したものではなく、過去に何度か挑戦している状況である。野生動物の食害により、枯死する株が増えたため、直近は野生動物の食害対策用のネットを張るなどして対応しているが、生育状況が良くないので、今後の維持管理内容について検討している。

(委員)

景観踏査ルートが、養老川自然歩道と林道大福山線の2本引いてある。ルート上の景観調査地点をどのように今後選定されるのか、もう少し具体的に教えていただきたい。

(事業者)

資料2-2の63ページの図面にある青線、緑線を踏査しながら、事業区域がどのように見えるのか、実際に歩いて決める計画である。

(委員)

対象事業実施区域が見えるところはすべて調査地点とするということによろしいか。

(事業者)

その中から、主要眺望地点を設定して予測、評価をしていきたいと考えている。

(委員)

そのルートはハイキングコース等として使われており、神社の鳥居の辺りにあるベンチは、ハイキングする方々が眺めながら休むような場所と思う。今回の第Ⅳ期が見えるかどうかかわからないが、この埋立地自体は見えるような場所に設置されているので、調査地点としていただきたい。

(委員)

資料２－２の１２ページに活性炭吸着設備があるが、使用した活性炭は定期的に交換して処分すると思われる。活性炭にダイオキシンが吸着されているので、適正な処理が必要と思うが、どのような処理をされているか。

(事業者)

交換は、活性炭のメーカーが基本的に新しいものに入れ替えて古いものを持って帰って再生利用すると聞いている。従って、当事業所内に使った後の活性炭を保管するという事ではない。

(委員)

ダイオキシン等が入っていても、再生利用できるということか。

(事業者)

メーカーによると、一部再生利用していると考えている。

(委員)

資料２－２の４４ページの悪臭について、実際に埋立て作業をしているときの発生臭気と埋立地のガス抜き管の両方を使って予測を行っていくということでよいか。

(事業者)

ガス抜き管から煙突のようにガスが出ることになるが、定量的な予測計算はせず、埋立地内部の臭気濃度、悪臭物質濃度を把握するとともに、風向きを考慮した上で敷地境界での濃度を把握する。予測は定性的に実施していく計画である。

(委員)

第Ⅳ期埋立地の供用開始時に第Ⅲ期も供用している計画となっているが、その２つの重なった影響も予測するということによいか。

(事業者)

そうである。現状、第Ⅱ期、第Ⅲ期のガス抜き管からガスが発生しており、加えて第Ⅳ期から発生してくる。これをうまく重ね合わせられるのかというのも今後検討して、当該処分場からの悪臭の影響が漏れなく予測していきたいと考えている。

(委員)

現在は、遊歩道を通る人からの苦情はないか。

(事業者)

地元の方から苦情というか、ちょっと臭うという意見は時々ある。臭気測定器を使って、適宜遊歩道を含めて職員が歩きながら臭気濃度などを測定して対応している。クレームがないように埋立ては細心の注意を払っている。

(委員)

資料２－２の２５ページ、２６ページについてお聞きしたい。気象の状況を調査するのは坂畑観測所で、ここの気象データを使って現地点を予測するという理解でよろしいか。複雑な地形になっていたと思うので、坂畑観測所で測定したからといって、他でも同じような風が吹くのかちょっと疑問である。それについては検討しているか。

(事業者)

坂畑観測所のデータで異常年検定をして予測に使うが、事業区域内でも風向風速を測定しているので、それと照らし合わせてみて外れた風向、風速の有無は確認していきたい。

(委員)

資料２－２の１５ページにおいて、大気質で光化学オキシダントは環境基準が達成されていないとか、水質でＢＯＤ、ＳＳ及び大腸菌数が環境基準を超過しているときもあると記載されていることについて、これは処分場によるものか、今後、施設が増設されたときにこの影響はどうなっていくのかを教えてください。

(事業者)

大気質の光化学オキシダントは、千葉県内で基準を満たしているところはないので、処分場による影響というよりは主に工場や車両からの窒素酸化物の影響により、ここ数十年基準を満たされてないという状況と理解している。

水質については、処分場からの影響が当然ゼロではないが、基本的には排水基準等を満たして放流しており、Ⅲ期の予測結果でも影響がないことを確認しているので、当該処分場の影響ではないと理解している。

(委員)

地図を見ると他に排出源があるのかどうかよくわからないが、処分場からの由来のものではないということはいえるということか。

(事業者)

はい。

(委員)

それでは御意見、御質問が出尽くしたようなので質疑応答は終了とする。